

さいたま赤十字病院 院外報

かがやき

FREE
ご自由にお持ちください

Vol. **53**
2020年度
4号

Contents

- 病院長 年頭挨拶 P2-3
- 診療科からのメッセージ P4
 - ▶ 泌尿器科 ▶ 健診センター
- 総合支援センターからのお知らせ P5
- 職員紹介 P6
- お仕事紹介コラム P7
 - ▶ 栄養課
- 患者さんの声 P8

表紙：さいたま赤十字病院 屋上からの初日の出

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

さいたま赤十字病院





年頭のあいさつ

新年あけまして、おめでとうございます。

令和3年1月
院長 安藤昭彦

◆日本の医療を破綻させないために

昨年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年となりました。武漢市からのチャーター便による帰国者やダイヤモンド・プリンセス号の下船者への対応から始まり、緊急事態宣言を受けての病棟再編など体制整備、不足する医療用マスクなどの防護具を何とかやりくりしつつ感染の恐怖と隣り合わせでの診療と大きな負担を余儀なくされました。

また、当院からも救護支援を予定していた東京オリンピック・パラリンピック大会も延期されるなど社会・経済・教育・文化・スポーツ、あらゆる方面で甚大な影響があった歴史的な年にもなりました。

残念なことにこのコロナ禍は現在進行形であり、世界的に収まる気配を見せていません。感染者数が欧米諸国に比べて少ないわが国でも、多くの人々が危機意識を持ちながら自粛生活を送る一方で、一時的にも生活様式を変えることに抵抗感を抱く、あるいは経済的理由から変えられない人々との間に認識のギャップがあり感染拡大が続いています。

昨年暮れには、GO TO キャンペーンなど経済を回しながらなんとか抑え込もうとする政府の方針に業を煮やした日本医師会や日本病院会、看護協会などが、連名で“医療の緊急事態”を宣言しました。既に100以上もの医療機関で院内クラスターが発生し、対コロナの診療に限らず通常の医療にも影響が出始めています。破綻の危機にあるわが国の医療を守るため、国を挙げての取り組みを求めています。

院内感染を防止するためには、気を緩めることなく愚直なまでの努力の積み重ねが大切です。当院でも全職員に、手洗い・手指消毒やマスクの着用、三密回避（特に食事時の会話の禁止）、毎日の健康チェックと体調不良時の出勤停止など基本的な対策を繰り返し周知し、徹底を図っています。当院に出入りする方々にも手指消毒、体温チェック、マスクの着用をお願いしています。さらに入院患者と家族の皆様には“面会制限”で新型コロナウイルスを持ち込まないようご協力をいただいています。

そして何よりも、この地域において新型コロナウイルス感染者をこれ以上増やさない取り組みが極めて重要であることは言うまでもありません。そのためには「感染リスクが高まる場面」、飲酒を伴う懇親会や大人数・長時間におよぶ飲食、マスクなしでの会話などを避け、自ら感染を防ぐ努力をお願いいたします。

何かとご不便をおかけして申し訳ございませんが、そのことが日本の医療を破綻させないために不可欠であることをご理解いただきたいと思います。

◆デジタル化の推進

さて、このように災害ともいえる大きな影響を及ぼしているコロナ禍ですが、わが国が抱えている様々な課題も浮き彫りにしました。

その一つが世界から大きく出遅れているデジタル化の推進です。日々のPCR検査陽性者数の集計が、各保健所からのファクシミリに頼っていたため不正確かつ遅いことが問題となりました。菅新内閣では新規にデジタル庁を設置し一気にデジタル・トランスフォーメーションで世界との差を縮めようとしています。

また、マイナンバーカードによる特別定額給付金、いわゆる一律10万円給付においても大混乱が起こりIT後進国であることを露呈しました。カードの作成に5,000円分のマイナポイントを付けましたが普及率20数%に留まっています。この3月からは健康保険証として使えるようになりますが、行く行くは同意を得たうえで、個人の診療・投薬・検査など保健医療情報がわれわれ医療機関で閲覧できるように準備が進められています。診療歴を把握することにより適切な診断検査、治療方針の決定に繋がりますのでカードの作成が未だの方は是非申請をしていただければと思います。

コロナ禍は、“オンライン診療”という新たな診療形態についても導入の検討を加速させています。現時点では、これまでの電話再診と大差ない未熟なものですが、具体的なルール作りが急ピッチで進められています。非接触、非対面、テレワークがウィズ・コロナ、ポスト・コロナの新しい社会で大きなウェイトを占めるようになってきました。医療における需要も増大しています。

その意味においてかかりつけ医の持つ役割は極めて大きいと考えられています。普段はオンライン診療を活用しながら町なかのかかりつけ医に通院し、専門的な医療が必要になった時に当院のような基幹病院に紹介をしていただく。その際にもオンラインを利用し通院回数を少しでも減らし、治療が終われば逆紹介で戻る。いわゆる「地域完結型医療」を推進するうえでオンライン診療は有効なツールになると期待されています。

ずいぶん昔のことですが、街なかに監視カメラを設置することに猛反対する人たちがいました。今ではいたるところに監視カメラがあり防犯に役立っています。個人の医療保健情報が悪用されるのではという不安は充分理解できますが、いざという時にそれをはるかに凌ぐメリットを享受してみたいかがでしょうか。

泌尿器科 ひにょうきか

■泌尿器科疾患全般に対する先進医療を提供します

さいたま市及び周辺地域の基幹病院の泌尿器科として、悪性腫瘍、排尿障害、尿路結石、尿路感染症など泌尿器科疾患全般に対する先進医療を安全、確実に提供できるように努めています。特に最近では、前立腺癌に対する最新の放射線療法としてサイバーナイフ治療、尿路結石に対するレーザー碎石治療、主として腎癌に対する腹腔鏡手術を導入しており、効果的な治療を低侵襲で行えるようになりました。

このところの新型コロナウイルス感染症の拡大で、一般診療に影響が出ることも懸念されておりますが、その中でも可能な限りの診療を提供していきたいと考えています。

■2021年3月よりダヴィンチ手術を導入します

当科では、2021年3月よりダヴィンチ手術（ロボット支援手術）を導入することとなりました。まずは前立腺癌に対する前立腺全摘から始め、将来的には腎癌に対する腎部分切除、膀胱癌に対する膀胱全摘にも拡大していく予定です。前立腺癌においては、手術療法、放射線療法とも最新の治療を選択できるようになり、患者さんにも満足していただけるものと確信しています。



泌尿器科部長
野呂 彰

健診センター けんしんせんたー

■赤十字のブランドと総合病院のメリットをあなたに… 安心とクオリティを

病気の予防と早期発見は、健康な生活を送るために必要なことです。

がんや心臓病、糖尿病など、多くの生活習慣病は症状が出てからでは病気が進行してしまっていることがよくあります。



あなたの病気が進行して診断された場合、ご本人が大変な思いや苦しい思いをするだけではなく、大切な家族や友人、職場にも大きな影響を及ぼします。場合によっては深い悲しみを与えてしまうかもしれません。病気の結果、重い障害（脳梗塞による麻痺、認知症、半盲、排尿障害など）が残れば、人生の楽しみが損なわれてしまうかもしれません。定期的な人間ドック、健康診断で病気の早期発見ができればこのようなことを回避できる可能性が高くなります。



健診部長
鵜飼 晴美

当院は地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援することを役割としております。

平成 29 年 1 月のさいたま新都心への移転に併せて、総合支援センターを設置し、医療連携課および相談支援課の2課体制にて、医師、看護師、医療ソーシャルワーカーおよび事務職が各々の職責に合わせ、他部門とも連携を取りながら地域医療の支援に邁進しております。

当センターでは、今後とも『顔の見える医療連携』を合言葉に業務を行って参ります。

総合支援センターの役割



当センターで行っている相談

医療福祉相談

生活のさまざまな問題について相談をお受けし、社会福祉の立場からお手伝いします。

在宅療養相談

入院時から退院後に安心した生活が送れるよう、看護師と医療ソーシャルワーカーがお手伝いいたします。

がん相談

がんのことについて知りたい、今後の療養や生活上のご心配など一般的な医療情報の提供や療養上の相談をお受けします。

セカンドオピニオン

今後の治療方針や治療内容等を現在の主治医と決定する際の参考となるよう“第二の意見”を提供いたします。

かかりつけ医相談

当院での治療等が終了され、地域の診療所への通院が可能になった患者さんに対して通院先を見つけるサポートをします。

※各相談の詳細につきましては、当院ホームページをご覧ください。



総合支援センター

相談窓口のご案内

次回の2021年度 第1号では、『医療福祉相談』を紹介いたします。



様々な機器や備品の修理を 行っております

施設課

山田 直光



事務部施設課で技術員として院内の修繕業務（医療機器を除く）、様々な設備機器や備品の修理を行っております。

修繕業務

修繕業務には、建物の壁や床の破損、ドアの修理や調整、排水の漏れや詰まりなどの建物のメンテナンスがあります。旧病院時代は建物が古かった為、業務も多く忙しく、数人で仕事をしておりましたが、新病院になり修繕業務も減り、現在は一人で業務を行っております。

設備機器・備品の修理

院内には様々な設備機器があり、そのほとんどを可能な限り修理しています。また患者さんが目にする車椅子やナースコール、ロッカー、棚、テーブル、椅子、ワゴンなど、院内の備品も修理しております。時には初めて修理をする物もあり、頭を悩ますことも多々ありますが、修理を終えた時は嬉しいものです。



重いリネン類を運びやすくするために車輪をとりつけました。



突発的な要望に対する製作にも対応

昨年の始めには、世界中で新型コロナウイルス感染症が流行し、飛沫感染に対する対応が重要になったことから、当院でも飛沫感染防止設備について受付事務及び看護師より製作依頼を受けました。どのような形状にするべきか迷いましたが、院内で働くスタッフの安全の為に一刻も早く設置しなければと思い、短時間かつ安価な部材で製作し、現在の設置に至っております。

このような突発的な要望に対する製作も私の業務であると思い、これからも出来る限りの対応をし、安心して設備や備品を使って頂けるようにと考えております。



作成した飛沫感染防止設備。各受付に設置しました。



最後になりますが、新型コロナウイルス感染症により生活が一変し大変な状況になっておりますが、一日でも早くこの感染症が終息し、以前のような生活に戻ることができるよう切に願っております。

本物そっくり?

季節を味わう嚥下食

私たちの暮らしには四季折々の行事があり、食もその楽しみ
の1つです。

しかし病や身体の衰えは時として、その楽しみを奪うことが
あります。食べ物を噛み、口の中でまとめのどに送り込み、
飲み込む。何気なく行うこれらの動作に問題がある患者さんに、
嚥下食と呼ばれる調整食を提供しています。この嚥下食は、
軟らかく飲み込みやすい食事ですので、ドロドロとした物を想像
される方も多いかもかもしれません。食事は美味しいことは勿論、
特に日本料理は「目で食べる」と言われるほど、見た目も
大切です。ゼリーやムースのような形態が摂取可能な方には、
本来の料理の雰囲気味わっていただきたく、少しずつ
ですがメニュー改善に取り組んでいます。最近は特に行事食
に力を入れています。

12月は1年の中でもイベントの多い時期でしたので、その
中から冬至とクリスマスの1品をご紹介します。



四季の行事がある日は
当院オリジナルのカードや箸袋を
入院中のお食事に添えています。

冬至 南瓜の煮付け風

一見するとただの南瓜の煮物です。そう見れば大成功。

かぼちゃは種類や状態によっては粉っぽく、口の中でバラバラになって

しまう食材です。写真は、南瓜を再現した一品。皮を剥いた
南瓜をミキサーにかけ、ゲル化剤で固めます。硬い皮の部分
はほうれん草をミキサーにかけ、ゴツゴツとした皮の
風合いを出す為に皺を寄せてゲル化剤で固めます。
身と合せる時に端の方はあえて削り、面取りしたように
仕上げます。煮汁代わりにあんをかけることで、更に
口の中でまとまり、飲み込みやすくします。



調理師
石田 光

クリスマス ショートケーキ風ゼリー

こちら本物にこだわった苺ショート風のクリスマスケーキです。
ケーキ用のスポンジを紅茶液と共にミキサーにかけ、ゲル化。

ミキサーは水分がないと回りませんが、その際に紅茶液を

使うのは、香りとしつけのためです。スポン
ジゼリーが固まったら、苺ゼリーとクリーム
を挟んで重ね、表面にも苺のゼリーとクリーム
でデコレーションを施します。



調理師
川井 慶太

その料理本来の味に仕上がっているか、テクスチャー、成形方法など何度も試作を繰り返します。誌面では味や食感をお届けできないのが残念ですが、これからも一人でも多くの方の「食べたい!」を目指し、チャレンジを続けたいと思います。

栄養課 田中 明穂



患者さんの声にお答えします。

ご意見

直ちに入院することになった中、第1希望の病院から断られた後、貴院は直ぐに受け入れてくれたこと、検査が効率的に行われたこと、スタッフが誰でも丁寧、親切であったこと、建物が新しく快適に過ごせたこと。今後も地域の基幹病院としての役割を続けることに期待しております。入院しての楽しみである食事（夕食）に「栗ごはん」が出ました。季節を感じ子供のころを思い出しました。食べ物に季節感がない今、私のように地方出身者には食材1つにも季節を感じ、それが心身ともにエネルギーとなります。限られた予算の中でご苦労もありましょうが、是非今後も続けてください。感謝です。

お答えします

大変温かいお言葉をいただき、ありがとうございます。
この言葉を励みとしながら、今後も患者さんに喜んでいただける食事が提供できるよう栄養課職員一同頑張っております。ご意見ありがとうございました。

ご意見

快適な入院生活を過ごすことができ感謝しております。但し、一つ不満があります。大声ではなくルールを破っているわけではないのですが、ディールームの中で携帯電話を使って「ボソボソ」と30分、1時間と長電話をしている人が散見されます。ディールームのような共有の場所での長電話について、控えるように注意喚起する旨を「張り紙」等で周知されますようお願いできないでしょうか。ご検討ください。

お答えします

ご不快な思いを感じさせてしまい、大変申し訳ありませんでした。入院療養時の最低限のルールを「入院のご案内」に掲載させていただいておりますので患者さんにもお守りいただきたいと思っております。ルールをお守りいただけない患者さんにつきましては、看護師からも注意し、ご不満を軽減できるよう努めてまいります。

ご意見

コロナ禍、貴院に初めて入院しました。面会もままならない日々の中、優しく、厳しく、また励ましてくださった看護師をはじめスタッフの方々にどれだけ慰めてもらえたか知りません。患者一人ひとりに心のこもった愛溢れる対応有難うございました。紹介先が「さいたま赤十字病院」で良かったです。

お答えします

大変温かいお言葉をいただき、ありがとうございます。
スタッフ一同この言葉を励みとしながら、これからも患者さんから信頼される病院となるよう、日々努力してまいります。

さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないよう行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。